

AJTA

アジャタ

(ワッサム)

平成2年に北海道上川郡和寒町で考案され、平成8年4月に全日本玉入れ協会が設立されました。

協会名 (All Japan Tamaire Association) の頭文字からスポーツ名を「アジャタ」に。現在協会は、北海道に協会本部、大阪府貝塚市に関西協会、宮崎県諸塚村に九州協会があり、大会開催と地域への普及を図っています。

全日本玉入れ選手権競技規則(アジャタルール)

◎ルール

「全日本玉入れ」は6人の選手が合計100個(アジャタボール×99個、アンカーボール×1個)のボールをバスケットに入れるまでの時間を競うタイムトライアルスポーツです。

- ①出場選手は6名で、一人でも欠けると失格です。
- ②スタートはフライング防止のため後ろ向きからとなります。(号砲でスタート)
- ③アジャタボールを先に入れ、アンカーボール(黒)は一番最後に入れます。(先に入れると失格)
- ④100個のボール全部入っていないと失格です。
- ⑤俵などの道具や肩車などの投球は失格です。
- ⑥ボールがバスケットにかかっている場合セーフです。バスケットにかかっているボールをアンカーボールで落としてもセーフです。
- ⑦選手以外の方がアジャタボールに触れると失格となります。
- ⑧その他試合運営については監督会議で通知します。



◎用具編

競技場所 屋内体育館

◎参加選手

選手数	登録(監督含む)8名以内 出場選手 6名
性別	男女問わず
年齢	高校生以上(高校生のみのチーム編成は認めない) ただし、そのチームに成人者1名以上の参加がある場合は認める(成人者の証明書添付)

◎競技用具

①アジャタコート

直径6mの正円形として、中央にアジャタバスケットを配置する

②アジャタバスケット

高さ4m12cm直径44cm(円周138cm)深さ44cmのスチール製ベースつき

※玉入れ発祥の地、北海道「和寒町」で計測された最低気温 -41.2°C
和寒町が、北緯 44° であることが由来

③アジャタボール

アジャタボール 外皮(布製)中身(樹脂粒子) 80g(誤差2g)

アンカーボール 外皮(布製)中身(樹脂粒子) 250g(誤差5g)

④アジャタシューズ

屋内用シューズ(運動靴)を着用する



◎プレイの進行

①スタート

アジャタボールをサークル内に配置し、選手は全員サークル外で後ろ向きでスタンバイします。
号砲スターターにより一斉に玉入れを開始します。

※アンカーボールは最後に入れますので、きちんと管理しましょう。

※監督がサークル外で指示するのはOKです。

②投球開始

アジャタボールの入れ方は、道具を使わなければ自由です。
選手6人のバリエーションプレイをそれぞれ作戦として研究してください。
たとえば、投球する人、ボールを集める人などのフォーメーションを時間とともに変化させていきます。

③フィニッシュ

アンカーボールがバスケットの中に入った時点でのタイムをストップウォッチで計時します。

※上記ルールは平成8年4月15日に正式決定され、全国選手権大会および九州選手権大会は、すべてこの アジャタルールを基として開催されます。

*ちなみに、上位進出を狙うには、30秒台ぐらいのタイムが必要になるようです。

全国都道府県対抗優勝チームタイム、**12秒72**

全日本玉入れ選手権、

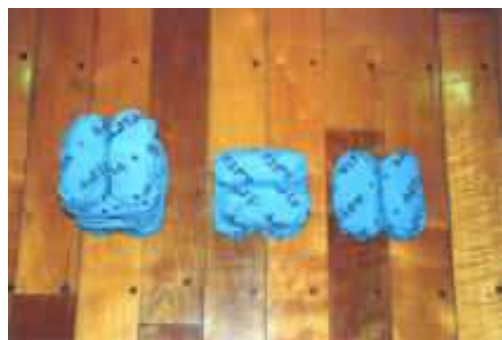
1位:16秒67 2位:17秒78 3位:22秒50 4位:24秒23 5位:31秒74

6位:31秒97 7位:35秒98 8位:39秒52 9位:44秒68 10位:47秒78

◎玉入れテクニック

「たかが玉入れ、されど玉入れ」よいタイムを出すのはなかなか難しいものです。そこで、少しでも玉入れテクをお教えします。後は、チームワークと練習あるのみです。

1. 玉の積み方



「俵積み」2個のAJTAボールを交互に積んでいきます



「3本パイ」縦に2個、横に1個、計3個を交互に積んでいきます。手の大きな方には便利です。

2. 投げ方



「挿み投げ」胸元に手を添えて、狙いを定め、挿むように投げます。



「フィニッシュ」自分で一番かっこいいと思う格好をしてください。

3. 持ち方



バラけないようにして最後までフォローしてください。